

あなたも助っ人 医療通訳

世界各国で医療援助や災害救援活動をしているAMDA（アジア医師連絡協議会）の神奈川支部（代表・小林米幸医師）が、医療通訳養成講座を開いている。県内の医師や薬剤師らが、病院などで使われる用語をやさしい日本語で説明。受講者は、自分の話せる外国語に翻訳して、外国人に分かりやすく伝えられるよう備えるのがねらいだ。小林代表は「地域での活動にも力を入れたい」と、AMDAの会員以外にも参加を呼びかけている。

「粉の漢方薬は飲めないという外国人の方には、水かぬるま湯に溶かして飲んでもらってもかまいませんよ」

今月二十五日、横浜市中区の薬局であった講座のテーマは「医薬品と服薬指導」。通算十三回目だった。講師はこの薬局に勤める薬剤師の篠原真理子さん。

受講者は十一人。陳列ケースと壁の間にイスを並べて座ると、店がいっぱいになった。「『たん切り』って、英語でなんて言うんでしょうか」「一体の大きい外国人は日本人と同じ薬の量で十分でしょうか」などの質問が相次いだ。

一九九七年十月に、国際医療協力で定評のあるAMDAの活動を支援する人々のすそ野を広げようと、全国で二番目の支部が神奈川にできた。この講座を支部独自の活動として始めたのはそのほぼ一年後。「AMDA」というと、国際的なイメージが

外国人に薬・病気どう説明 まず日本語で知識学ぼう

AMDA「地域活動にも力」 支部が講座

強い。地域のボランティア組織としての草の根的な活動も必要」（小林代表）と考えたためだ。

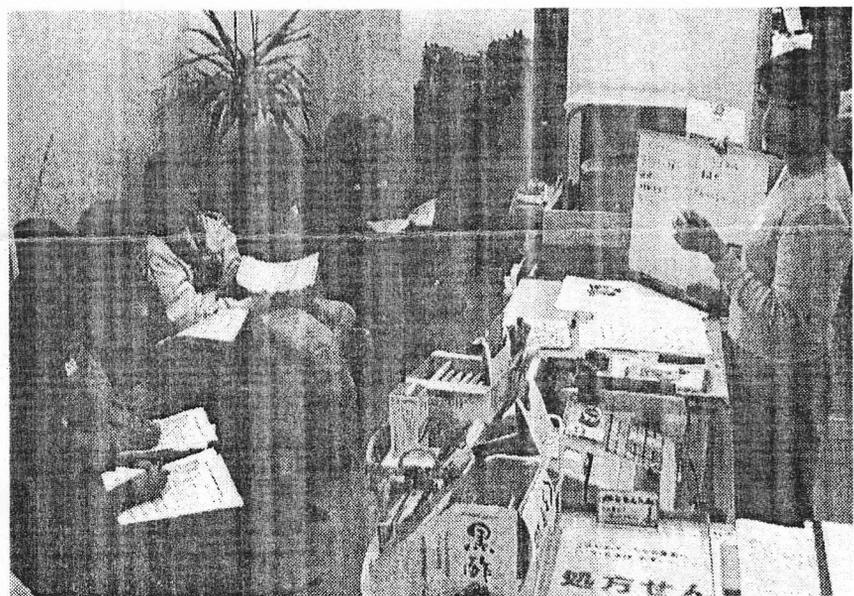
講師は毎回、医療関係者。語学講座とは違い、専門的になりがちな医療の話を受講者にきちんと理解してもらうのが目的。日常会話程度の外国語を何か話せればいい。

受講者の中には「よく通訳を頼まれるけど、医学用語はよく分からないから」という人や、「医療の知識を高めて医療関係の資格をとりたい」といって参加する人もいる。

この日、浦和市から来た薬剤師の三輪智恵子さん（右）は「薬局に薬を買いに来た外国人のお客様さんへの説明に困ることがあ

「医薬分業の長所と短所はなんでしょう」と篠原真理子さん（右）。受講者の疑問や意見を引き出しながら講座が進められた。横浜市中区で

る。ほかの受講者の人の質問も



「できるだけお金をかけずにやろう」と、講座の開催場所は講師となる医師らの勤務先を使うことがほとんど。そのため毎回、場所が変わる。次回は四月十六日に横浜市青葉区で「眼科領域について」の講座が開かれる。

参加費は毎回五百円。問い合わせは小林代表（小林国際クリニック）大和市西鶴間三丁目、046・263・1380へ。

参考になる」と話していた。